

第46回外国語大学英語弁論大会（旧五外大）入賞者に聞く

インタビューアー・田中博之（EFEL 副会長）

昨年、個人優勝の森みつ子さん、3位入賞の山中賢治さん（現部長）に、お話を聞くことができました。

田中：この度は、おめでとうございます。OB/OGの先輩方も、「現役の快挙」と大変喜ばれています。今日は少しお時間を頂いて、入賞までのエピソードを聞かせてください。まず、お二人のスピーチの内容を一言で言うとは？

森：（タイトル=Change Yourself）

中学校時代の不愉快な思い出を通して、他人と交わって行く中で、他人を思うようには変えられないので、自分の側が自信を持って変わって行くことが、大切だという内容です。



山中：（タイトル=Passion Bridge to Communication）

自分自身、人見知りで、他人とつながるのが苦手で、上手に話せない。でも、自分に自信を持ってやる気を出せば、コミュニケーションは取れるという内容です。大学に入って、そういう人見知りの自分を変えようと考えた。そのためには、変化に対する情熱と、自身のキャリアを楽しむ事が大切だと思いました。



田中：今回の勝因は、なんだったと思いますか？

森：目標を定めて、早めに準備を始めたので、原稿の推敲や、スピーチの技術に注意する余裕があったことが、勝因だと思います。

山中：なるべくネイティブがやるようなスピーチを目指したかった。

そのために、スピーチの技術を学びました。それが良かったと思います。

森：私は、今回のスピーチは、人生に1回だけのチャンスだと思ってのぞみました。

コミュニケーション不足やコミュニケーション不能は、現代の社会問題だと思っています。

田中：今回、OB/OG2名（杉本さん、田坪さん）がキャンパスに行ってコーチをしましたが、どうでしたか？

森：自分が強調したいところを強調するテクニック等を、分かりやすく教えてもらいました。とても勉強になりました。

山中：2回の内、1回した出席できませんでしたが、原稿の内容や単語の使い方などについて、アドバイスをいただきました。「分かり易いスピーチ」を目指していたので、有効なアドバイスを頂きました。田坪さんには、本番は現場まで来て頂き、応援して頂きました。ありがとうございました。

田中：今後もいろいろな機会に、卒業生（OB/OG）のコーチはやった方がいいですか？

森、山中：はい！お願いします。

田中：さて、お二人の次なるチャレンジはなんですか？

森：今年2回生になり、スピーチセクションのリーダーになります。4月に入部してくるであろう、1回生の指導に当たりながら、学長杯弁論大会を目指します。

山中：スピーチセクションに所属していましたが、ドラマセクションに移りました。

理由は、ドラマの演技を学び、スピーチに役立てたいと思ったからです。ドラマもやりながら、やはりスピーチも頑張ります。目標は、学長杯弁論大会ですが、その途中に、他学の招待スピーチ等があるので、それらにもチャレンジしたいです。

田中：大会全体を通じて、どんな感想を持ちましたか？

森：スピーチの順番が一番最後だったので、他の参加者のスピーチを聞いていて、非常にレベルが高いと感じて、緊張しました。まさか、優勝できるなんて、その時は思っていませんでした。

山中：順番は真ん中くらいだったので、他のスピーチを聞いていて、みんなそれぞれ、内容はもちろん、デリバリーの技術や方法等、様々な違いがあるのだなど、感じました。

田中：余談ですが、スピーチを書く時、日本語を先に書いて英訳しますか？

森、山中：いいえ！最初から英語で書き始めます。

森：最初から英語で書かないと、日本語を訳すことはできません。英語で考えて、そのニュアンスをそのまま英語で表現します。

田中：そうすると、自分のボキャブラリーの限界を超えられないのでは？

森：もちろん、所々必要に応じて辞書も使いますが、なるべくビッグワードは使わないよう心がけました。辞書では、ニュアンスを確認して、単語の選択をしました。

山中：「分かり易いスピーチ」を目指していたので、ボキャブラリーの壁は意識しませんでした。やはり英語のニュアンスを大切にしたいだったので、分かり易い単語を使ったフレーズ等を研究しました。

【田中から】

若いお二人でしたが、しっかりと自分の考えを持ち、それを中心にした受け答えで、立派に答えて頂きました。

お二人とも、2月2日(土)18時から大阪市内で開催される、EFEL 関西地区新年会+スピーチ大会優勝祝賀会に参加して頂けるとのこと。

今度はOB/OGのみなさま、直接お話をされてはいかがでしょう？

お二人もその他現役部員も、楽しみにされているようです。

テストの合間のお忙し時にお時間を頂き、お二人に感謝申し上げます。